

まるごと一日よくばり図書館 秋講座「木の実の工作とお話の会」

2020年11月1日（日）13時30分から15時まで、真備公民館大集会室で「まるごと一日よくばり図書館 秋講座『木の実の工作とお話の会』」を開催しました。10組30人の参加がありました。

「倉敷市立自然史博物館友の会」と「真備図書館を応援する会」の会員が、事前に真備町で木の実を拾って集めてくれました。



自然史博物館友の会会員の方に教わりながら、木の实を使って、クマ・鶴・亀のうちの一つを作りました。



図書館司書とお話ボランティアが、絵本の読み聞かせをしました。



木の実に関する図書を展示・貸出ししました。また、絵本の内容をクイズにして、楽しみました。クイズにした絵本は『こならぼうやのぼうし』（八百坂洋子／文 高森登志夫／絵 福音館書店）と『まほうのえのぐ』（林明子／さく 福音館書店）です。



再開館した真備図書館に飾る「MABI・BIRD」(マビ・バード)を作りました。今回の講座の参加者30名と、10月31日(土)11月1日(日)に来てくださった、のべ78人の方に協力してもらって、真備町にある放課後等デイサービス「ホハル」の代表・滝沢達史さんと子どもたちが描いた下絵に、真備で拾った木の実を貼り付けました。



【MABI・BIRD—まびのとり】について

ホハルキッズ&滝沢達史(ホハル代表)

2年前の豪雨で真備町は小田川の水に飲み込まれてしまいました。その水で私たちは多くのものを失いました。それでも真備町に帰りたいと思うのは自然豊かな真備が恋しいからです。真備図書館再開を記念する絵を考えた時には、やはり小田川のことが最初に思い浮かびました。小田川をイメージした青の流れを、子ども達と一緒に作りました。その上空には、太陽の光を描きました。そして川からまっすぐに飛翔する鳥を描きました。この鳥は真備の自然から集めた、木の実や枝で作られます。これから、多くの人が一つ一つ手を添えて鳥を作ります。真備町が自然とともに暮らせる豊かな故郷となるような願いを込めて。光に向かってまっすぐ進みますように。

それぞれの作品を手に、みんなで作った「MABI・BIRD」(マビ・バード)と一緒にパチリ。

参加して下さった皆様、ありがとうございました。



<秋講座スタッフ>

- ・倉敷市立自然史博物館友の会 5人
- ・お話ボランティア(真備町在住) 5人
- ・真備図書館を応援する会 4人
- ・図書館職員 5人